

校長室より

「二松から飛翔へ」

二松学舎大学附属高等学校
校長 鶴飼敦之

始業式「教養を身に付けよう」

今年は玄関脇の桜も満開の始業式となりました。校歌の中にも桜の歌詞が謳われていましたね。

今日から新たな1年がスタートします。大きな期待に満ち溢れていることと思います。3年生は高校生活の締めくくり、そして全ての行事や取組が「二松で最後の」という冠がつきます。勉強に学校行事や部活動に全力で取組み、将来の進路決定に向けて悔いの残らない1年にして欲しいと思います。2年生は後輩もできるので学校の中核としての自覚をもち、中だるみの1年とならないようメリハリの利いた生活を目指してください。



以下、始業式の式辞抜粋です。

日頃から皆さんは、様々な教科の学習をし、教科書を通して、いろいろな知識を学んでいますよね。これらの知識はなんの為に学ぶのか、直接役にたつのかという疑問は誰もが持つことと思います。例えば、私は日本史を長く教えてきましたが、「平安時代の藤原氏の政治」、一体どこで役にたつのか？ でも「すぐに役立つことは、すぐに役立たなくなる」ことが多いものです。すぐには役立たないけど、あるいは一見、役立ちそうにはないけれども、長い目で見れば心の栄養になったり、自分を高めたり、世界や視野を広げてくれるものもあると考えましょう。教養を身に付けるということは、長い人生をよりよく生きることにつながるのだと思います。

話は変わりますが、

好きなTV番組は以前にも紹介したNHKの『ブラタモリ』です。タモリとアナウンサー、そして地元の専門家との軽妙な掛け合いトークは実に面白く、毎回楽しみに観ていました。その中でタモリの知識の広さに驚かされます。実際に街をブラブラする中で専門家から「タモリさん このあたりを眺めてなんか気づきませんか？」と問われると、タモリはちょっと考えて「これこれですか」「こうなってますね」など、勘の良さ、地質や地形に関する知識、歴史や雑学などその豊富な知識に驚かされます。楽しみにしていた番組でしたが、3月に突然最終回を迎えたのが残念です。

もう一つ現在、視聴しているのはNHKの大河ドラマ「光る君へ」です。これは、紫式部を主人公にしたストーリーになっています。先ほど話題にした「藤原氏の政治」ですが、このドラマを観る上ではとても参考になっています。時々、日本史の図録で藤原氏の系図を確認しながら見るのですが、歴史の広がりや人間関係をチェックしながら見るとドラマもより楽しくみることができます。

教養の話にもどって、

教養を身に付けると視野が広がり、様々なジャンルの世界をつなぐことも可能になります。歴史の断片的な知識がふとしたことで他の発見とつながることもあるでしょう。何気ない出会いが特別な出会いに変わることもあるかもしれません。その出会いとは人であったり、土地であったり、別々だった世界が幾層にも重なりあっていることに気づかされるのかもしれない。ぜひ、その深く味わいのある喜びを体験できるようにしてみませんか。また、生きていく上での様々トラブルに見舞われたとしても身に付けた知識や経験が解決に導くこともあるでしょう。学んだことが思わぬところで役にたったという経験が人生を豊かにしてくれると思います。なぜ学ぶのかのヒントにしてください。